

胎内市総合計画策定に係る市民ワークショップ 第4回ワークショップの報告

1. ワークショップの概要

◎テーマ：住民提案のまとめ

◎日時：2016年5月25日（水） 19:00～21:00

◎会場：胎内市役所 501 会議室

最終回となる今回は、過去 3 回の検討内容を1つのストーリーにまとめた住民提案の叩き台を見ながら、これまでどんなことを話し合ってきたのかを改めて確認し、内容に違和感がないか、追加しておきたい内容がないかを話し合いました。

残念ながら所用により欠席された方もいらっしゃいましたが、新たな提案が飛び出すグループもあるなど最後まで白熱した議論が行われました。

2. 当日の流れは・・・

①グループの枠を超えた意見交換・情報交換



開会前に他のグループの提案の叩き台を見ながら1時間ほど意見交換・情報交換を行いました

②グループ別討議



住民提案の叩き台を机の上に広げて、気になる箇所があれば付箋を貼りつけます

③全体発表



最終回となる今回は、代表者による発表に加えてメンバー全員から一言ずつコメントをもらいました

3. 今後の予定は・・・

◎今回出てきた修正・追加内容を反映して住民提案の最終版とします。

◎完成した住民提案の内容を踏まえて、現在の政策に見直すべき所はないか、新たに取り込めるものないかを検討し、第2次胎内市総合計画の策定に活かしていきます。

4回にわたりワークショップに参加していただきありがとうございました。

4. 第4回ワークショップの成果

住民提案は3グループ共通して以下のような構成としました。これまでの検討内容をこの3段構成に流し込んだ叩き台をもとに意見交換を行いました。

1. ○○グループの現状認識 : 市の現状をこのように捉えている
- ↓
2. まちづくりの方向性 : だからこういうまちを目指したい
- ↓
3. 目標を実現する施策案 : そのためにこんなことに取り組む

◎自然環境グループの発表内容の抜粋



- 新しい意見がいっぱい出たのでもう一度意見を整理しました。
- ベースとなる自然環境の上で観光が成り立ち、その観光を教育につなげていく。自然、観光、教育のピラミッドをイメージして、次のような方策を考えています。

- まず自然環境にどんなものがあるか整理が必要。このデータを集める作業をイベント化して、外部の人に楽しんでもらいながら資源を掘り起こす。
- そうして見つけた自然資源を作る・植える・食べる・写真を撮るといった体験活動として売り出していく。
- その体験には教育という目線を加えることで、理科教育の材料としても自然を活用していくことができる。また、自然や観光に関する情報発信を子どもに任せることで、スキル・キャリア教育が全国でも例のないものになる。

◎福祉・健康グループの発表内容の抜粋



- 困っている人のための入口となる場所があり、そこですくい上げた課題を受け止め解決するための窓口があり、市民がそのサポートに力を発揮できる仕掛けがある。これを1つのパッケージにまとめて、誰のどんな悩みにもワンストップで対応できるまちの実現を目指します。
- これを推進するために次のことを考えました。

- 市民が持続的に活動するために団体の垣根を超えて交流することが必要。そのために、人の輪を広げる歩み寄りや、集まり（飲み会等）の音頭を取ることが市民の大事な役割。
- 市報に代わるPRとして、電光掲示板のような人の目を引くお知らせ、(市民発の)フリーペーパーを考えたい。そのためには事業者に協力・協賛をお願いすることも必要。

◎産業振興グループの発表内容の抜粋



- まとめに入るかと思いきや、まだまだ課題が出てきて、その議論をしているうちにあっという間に時間が来てしまいました。
- 色々な課題や意見が出ましたが、そのうちのいくつかをご紹介します。

- 新道（新発田市）、古町（新潟市）ではみんなで肩を組んで2次会、3次会に移動できるが、飲食店が点在する胎内市はタクシーでの移動となるのが壁になっている。
- 「地元の企業に入れない」という声がある一方、企業から見ると「地元の企業に入ってくれる人がいない」状況とのこと。胎内市や早期からのPRなどの対策が考えられる。
- まちづくりと人づくりのどちらが先か。例えば、胎内市と似た条件・規模の地域で成功した社長の講演会や伝え下手の市民性を克服するコミュニケーションのための勉強会などができると面白い。

第4回ワークショップの成果は、全4回の議論の成果“住民提案”として別紙にまとめていますのでそちらをご覧ください